

明治期における洋館建設と天皇行幸の関係性について

— 『明治天皇紀』 に記録のある行幸事例を中心に —

内田・須崎研究室 池田 直也

研究概要

明治時代、文明開化によって流入した西洋文化は日本に様々な影響を与えた。建築に関しては、洋館建設が行われるようになったことが変化の1つとして挙げられる。洋館建設についてみていくと、日本人の私邸で洋館を建設した最古の例は、明治4年に起工した旧福岡藩主、黒田長知の邸宅であるといわれている。また、翌5年には、同じく旧藩主の毛利元徳も洋館建設を開始している。この2つの邸宅にはその後、明治天皇が訪問している（このように天皇が出かけることを行幸という）。当時稀であった洋館建設を行った両邸に行幸が行われていることから、この2つの事象には何らかの関係があるのではないかと考えた。

研究目的

宮内庁編『明治天皇紀』から抽出した、明治時代に行われた私邸に対する行幸事例46例について、邸宅の様式（和館か洋館か）・邸宅所在地・建築年代・行幸時の邸宅の使用状況などを調査することで、行幸と洋館の関係性を明らかにすることを目的とする。

研究成果

46事例について、既往研究で使用されている資料に加えて、今回収集した新たな資料を基に調査を行った。結果を右表（表1）に示す。

行幸時洋館で天皇を迎えた事例は46例中16例であり、明治8年の黒田邸をはじめとして、明治12年までは洋館で迎えた事例はまばらにみられ、18年の山縣邸行幸までは途絶えるが、20年の徳川邸行幸以降はほとんどが洋館で迎えていたことが明らかになった。明治12年から20年の間で、洋館事例がほとんどみられない理由については、明治11年に垂示された朝官の邸宅に関する天皇の聖慮（考え）が関係していることが考えられた。その内容は、皇居が完成するまでは、邸宅の新築や増築を控えるように、というものであった。皇居が完成したのは明治21年のことであり、これは洋館事例がみられない期間とほぼ一致する。また、行幸時に使用された洋館の多くは、建設されてから間もないものが多く、中には行幸に合わせて洋館建設を行ったことが記されている事例も存在した。

以上の事から、明治8年の黒田邸行幸の時点で、天皇を洋館で迎える形式が存在しており、聖慮により一時的にみられなくなるが、21年以降は洋館で迎えることが主流となっていることが確認できる。また、洋館ではなく和館で迎えた場合でも、敷物・机・椅子等を持ち込むことで洋館の代替として使用していた事例が存在しており、これらのことから、明治時代を通して、行幸時には天皇を洋館で迎える形式が存在したことが考えられた。

表1 対象とした46事例についての調査結果

番号	洋館の有無	洋館の状態	人物名	行幸実施年月日	邸宅様式
1			三條 實美	明治4年8月18日 (1872年)	(和館)
2			岩倉 貞徳	明治4年8月18日	(和館)
3			島津 久光	明治6年5月22日	(和館)
4			毛利 元徳	明治6年5月22日	和館・洋館(新築)
5			山内 豊範	明治6年12月19日	和館(新築)
6		新築	三條 實美	明治6年12月19日	和館(新築)
7			松平 慶水	明治6年12月19日	(和館)
8			伊達 宗城	明治6年12月19日	(和館)
9	洋館	新築	黒田 長知	明治8年1月31日	和館・洋館(新築)
10			池田 輝知	明治8年2月7日	(和館)
11			徳川 昭武	明治8年4月4日	(和館)
12			徳川 慶勝	明治8年4月4日	(和館)
13			三條 實美	明治8年4月4日	(和館)
14			岩倉 貞徳	明治9年4月14日	(和館)
15			木戸 孝允	明治9年4月14日	(和館)
16	洋館	新築	大久保 利通	明治9年4月19日	洋館(新築)
17			中山 忠能	明治9年10月13日	(和館)
18	洋館	新築	大隈 重信	明治11年4月8日	和館・洋館(新築)
19	洋館	新築	三條 實美	明治12年4月5日	和館・洋館(新築)
20			前田 利綱	明治12年4月10日	(和館)
21			岩倉 貞徳	明治12年8月18日	(和館)
22			大木 義任	明治13年5月8日	(和館)
23			寺島 宗則	明治13年6月9日	(和館)
24			島津 忠義	明治14年4月9日	(和館)
25			遠野 貞徳	明治14年7月11日	(和館)
26			徳川 昭武	明治15年11月21日	(和館)
27			徳川 昭武	明治15年11月21日	(和館)
28			徳川 昭武	明治16年6月3日	(和館)
29			徳川 昭武	明治17年4月2日	(和館)
30			伊藤 博文	明治18年7月7日	(和館)
31	洋館	新築	山縣 有朋	明治18年10月19日	和館・洋館(新築)
32			黒田 清隆	明治18年11月27日	(和館)
33			井上 馨	明治20年4月26日	(和館)
34			松方 正善	明治20年10月14日	(和館(新築))
35	洋館		徳川 家達	明治20年10月31日	和館・洋館
36	洋館		西郷 從道	明治22年5月24日	和館(新築)・洋館
37	洋館	新築	山田 鏡義	明治23年6月26日	和館・洋館
38	洋館	新築	大山 巖	明治23年11月15日	和館(新築)・洋館(新築)
39	洋館		川村 純義	明治24年4月10日	洋館
40	洋館	新築	池田 章政	明治24年11月16日	和館(新築)・洋館(新築)
41	洋館		後藤 象次郎	明治25年7月4日	洋館
42	洋館	新築	嶋島 直大	明治25年7月9日	和館(新築)・洋館(新築)
43	洋館	新築	土方 久元	明治26年6月2日	洋館(新築)
44			遠野 貞徳	明治27年11月6日	(和館)
45	洋館		徳川 義孝	明治29年12月18日	和館・洋館
46	洋館	新築	前田 利徳	明治43年7月8日	和館(新築)・洋館(新築)

苦労した点や感想など

行幸が行われた明治時代の邸宅については、図面や写真等の資料が現存している事例があまり多くなかった為、様式を判断するのが困難でした。また、資料が現存している場合でも、日本各地にある資料館や図書館に所蔵されていることが多く、移動が十分に行えない環境下では、資料の収集が非常に困難でした。